

都市再生整備計画<sup>だい かいへんこう</sup>  
(第3回変更)

<sup>くわな</sup>  
桑名地区

<sup>み え けん</sup> <sup>くわなし</sup>  
三重県 桑名市

平成26年 12月10日

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	三重県	市町村名	桑名市	地区名	桑名地区	面積	900 ha
計画期間	平成 23 年度	～	平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度	～	平成 27 年度

<b>目標</b>
<p>安全・安心を備えた快適な暮らしを育む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■地震災害時における火災対策と自主防災意識の向上を図る</li> <li>■高潮・水害時における氾濫浸水区域の防災安全性の向上を図る</li> <li>■災害時において迅速かつ確実な避難等を可能とする道路を確保する</li> </ul>

<b>目標設定の根拠</b>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■桑名市について <ul style="list-style-type: none"> <li>・桑名市は鉄道・高速道路網等による広域アクセス性に優れた名古屋大都市圏の隣接都市で、平成16年の1市2町(桑名市・多度町・長島町)の合併により、人口約14万人の都市となった。</li> <li>・1959年(昭和34年)の伊勢湾台風をはじめ、過去に幾度かの風水害による被害を受けており、以後、木曾三川をはじめとする堤防補強・内水排除を目的としたポンプ場等の整備を進めてきた。また平成21年に洪水ハザードマップを作成し、市民に対し風水害に対する防災意識の高揚を図っている。</li> </ul> </li> <li>■全国都市再生モデル調査・都市再生整備計画事業(H18年度～H22年度)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国都市再生モデル調査「桑名交流都市創生計画調査(H16.3)」では、桑名市の東都市街地において「観光・交流・防災」の観点からまちづくりを行うものとし、『歴史公園都市創生』の実現化に向けた中期的戦略を立案し、まちづくりに向けた取り組みを開始した。</li> <li>・これらの経緯を経て、本地区の一部を含む桑名歴史公園地区において都市再生整備計画事業を実施し「観光・交流都市創り」を目標に市民会館整備(リニューアル・耐震・バリアフリー等)・住吉浦休憩施設(インフォメーション施設)整備・はまぐりプラザ(漁業観光学習交流センター等)整備等を行い「観光・交流」の観点で事業成果が得られた。</li> <li>・一方、本市は平成15年に「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定され、平成17年に「東海地震防災対策強化地域」に指定されるなど、大規模地震の発生に伴う被害が危惧されている。</li> <li>・今後は、当該地区において「防災」の観点到重点を置き、地域の防災機能を向上し、市民や観光客の「安全・安心」を確保することが求められる。</li> </ul> </li> <li>■桑名地区の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市は、「東海地震防災対策強化地域」及び「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定され、活断層の存在も確認されていることから小中学校等の公共施設の耐震改修を推進しているところであるが、地震時の火災対策や自主防災意識の向上等に課題が残る。</li> <li>・地区内には、道路幅員が狭く密集した市街地が形成された地域や、主要幹線道路とのアクセスが悪い地域などがあり、地震災害時における防災安全性の向上が課題となっている。</li> <li>・また、1959年(昭和34年)の伊勢湾台風において甚大な被害を受けており、木曾川、揖斐川及び員弁川に囲まれる本地区は、大半が河川氾濫時の浸水区域となっているため、高潮・風水害の対策が急務となっている。</li> </ul> </li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巨大地震発生の可能性があり活断層の存在も確認されているが、地震時の火災対策が十分でないため、地震時の火災発生と延焼を防止するための防火施設の整備と地域の自主防災意識の向上が必要である。</li> <li>・地区の大半が河川氾濫時の浸水区域となっているが、地区南部は洪水時の避難場所が遠く、水害を最小限に抑制するための活動拠点が無いため、水防活動拠点の整備が必要である。</li> <li>・国道23号線から東側の城南地区の小貝須浜周辺は、対策本部や消防署が立地する市中心部から相互にアクセスできる道路が少ないため、緊急時に確実にアクセスが可能となる道路整備を進める必要がある。</li> <li>・東日本大震災の発生を機に震災対策を含め、津波等の災害に対しても避難施設の安全性を確保する必要がある。</li> </ul> <p>将来ビジョン(中長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに防災強化地域に指定された東海地震や東南海地震、南海地震などに対して、総合的な防災対策を確立し、災害に強いまちづくりを推進する[桑名市総合計画]。</li> <li>・桑名駅西地区では土地区画整理事業の導入により、一体的な都市基盤の整備を図り、良好な居住環境を形成する[桑名市都市計画マスタープラン]。</li> <li>・木曾三川を中心とする河川・海岸の堤防の強化や排水対策、防災拠点・避難所・一般住宅の耐震化や応急体制の強化など災害に強いまちづくりを推進する[桑名市都市計画マスタープラン]。</li> <li>・伊勢湾岸自動車道湾岸桑名インターを含む当該地域については防災拠点としての地区形成を図ることとしている。(都市再生モデル調査「桑名交流都市創生計画」)</li> </ul>

<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
自主防災組織の結成率	%	地区内の自治会総数に対する自主防災組織を結成している自治会数の比率	自主防災組織の組織率により地域の自主防災意識の向上の度合いを評価する。	58	21	65	27
避難所への避難時間(徒歩)	分	太平町集会所から避難所までの徒歩による所要時間	周囲を河川に囲まれた氾濫区域内にあり、洪水時の避難所が遠い集落(太平町)の避難時間の短縮効果により氾濫浸水区域の防災安全性を評価する。	40	21	9	27
災害対策本部へのアクセス時間(自動車)	分	地区内における主要な施設から、災害対策本部である桑名市役所までのアクセス時間	災害対策本部となる市役所までの時間短縮効果により災害に強い道路の確保状況を評価する。	10	21	8	27
自然災害に対する防災体制の市民の満足度	%	市民アンケート調査による「自然災害に対する防災体制」に満足している市民の割合	安全・安心を備えた災害に強いまちづくりに向けた様々な取り組み状況を市民目線で総合的に評価する。	58.3	24	80.0	27

## 桑名地区(三重県桑名市) 整備方針概要図

目標	安全・安心を備えた快適な暮らしを育む ■地震災害時における火災対策と自主防災意識の向上を図る ■高潮・水害時における氾濫浸水区域の防災安全性の向上を図る ■災害時において迅速かつ確実な避難等を可能とする道路を確保する	代表的な指標	自主防災組織の結成率 ( % )	58 (21年度) → 65 (27年度)
			避難所への避難時間(徒歩) ( 分 )	40 (21年度) → 9 (27年度)
			災害対策本部へのアクセス時間(自動車) ( 分 )	10 (21年度) → 8 (27年度)

